



福島県立橘高等学校

進路だより 第5号

令和3年8月31日

橘高校進路指導部

「令和4年度国公立大学入試日程」

令和4年度入試における「大学入学共通テスト」の出願の時期がきました。3年生の国公立大学一般選抜の受験に関する日程を載せておきますので、1・2年生も国公立大学の入試システムについてよく確認しておいてください。

9月3日(金)～ 9月16日(木)	「共通テスト出願の準備期間」…必要事項の記入や検定料払い込み等を行い、出願書類を学校に提出する。
9月27日(月)～ 10月7日(木)	「共通テスト出願」…本校は10月4日(月)に全員分をまとめて出願する。 ※12月15日(水)までに「受験票」が届く。
12月 冬季休業中	「三者面談」…ここで「出願先候補」を決定し、各自で大学ごとの願書を取り寄せる。あわせて宿泊先も手配しておく。
令和4年1月15日(土)・ 1月16日(日)	「大学入学共通テスト」
1月17日(月)	「自己採点」…学校で一斉に自己採点をし、採点結果をベネッセ、河合塾に送る。
1月17日(月)～ 1月23日(日)	「出願先決定」…1月19日(水)昼頃に各業者から結果が届く。担任・保護者・本人で話し合い「国公立大学出願先(前期・後期・中期)」を決定する。
1月24日(月)～ 2月4日(金)	「国公立大学へ出願」…全日程を同時に出願する。出願後の変更は不可となる。
1月29日(土)・ 1月30日(日)	(大学入学共通テストの追試験)
2月25日(金)～	「前期日程」試験
3月1日(火)～ 3月10日(木)	「前期日程」合格発表…合格者は3月15日(火)までに入学手続きを完了させる。
3月8日(火)～	「中期日程」試験
3月12日(土)～	「後期日程」試験
3月20日(日)～ 3月23日(水)	「後期・中期日程」合格発表…合格者は3月27日(日)までに、入学手続きを完了させる。
3月28日(月)～	「追加合格」の電話連絡の可能性あり。本校でも毎年数人の合格者が出ている。ただし、電話に出なければ、追加合格の権利を失う。

※ 私立大学においては、多くの場合1月下旬から2月下旬に一般選抜が行われる。
出願の締切日、試験の日程は大学によって異なるため、自分で確認する。



「Tachibana 自己変革プラン2021」

～浜通り地域の震災当時と今を知る～

昨年度は新型コロナの影響で中止となった「Tachibana 自己変革プラン」を、今年度は感染対策を十分にとりつつ実施できましたので、その報告をします。

<見学ツアー> 8月4日(水) 8:00~17:30

参加生徒22名(1年18名、2年4名)、引率教員4名、各施設の関係者の方で、福島駅西口から貸し切りバスにて出発した。

はじめに大熊町の中間貯蔵工事情報センターで、注意事項等を確認した後に、中間貯蔵施設の敷地内をバスで回った。老人ホームがあった小高い場所から見下ろす原子炉建屋や処理水タンク、土壌の埋め立て箇所などが見学出来たことや、敷地内にある民家、建物の半分が津波で無くなった公民館など衝撃的な状況を見ることができた。



【原子炉建屋等を望む】



【語り部の方の話を聞く】

次に、昼食会場となる双葉産業交流センターで簡単な意見交換会を行い、その後、レストランなどで昼食を摂った。屋上からは、北には請戸港、南には中間貯蔵施設、東には太平洋が広がっていた。

次に、隣接している原子力災害伝承館へ移動した。証言映像や当時の震災関連のアイテムの展示が中心であり、地震、津波、原発事故までの流れとその後の対応等が紹介されていた。また、震災当時浪江町の請戸小学校6年生だった語り部の方から、当時の話を伺った。

伝承館を出発後、請戸小学校校舎や児童が避難したという大平山公園をバス内から見学した。夜の森駅前の桜並木を通り、常磐道、東北中央道経由で福島へ帰ってきた。

<事後学習> 8月6日(金) 13:30~15:00

「1班3人から4人の計5班に分かれ、5つの年(下記参照)における『その時、福島にどうなっていてほしいか』を考えた。各班で出てきた意見を40cm×60cm程度のシートにまとめ、最後に3分程度で発表する。」という課題に取り組んだ。それぞれの意見は下記の通りである(代表的な意見のみ記載)。

【2021年 今(16歳)】

- 他県の人に放射線の知識や福島の現状を訴えることが必要である。
- 汚染された土について、除染して再利用することで最終処分量を減らす。

【2025年 4年後(20歳)】

- 帰還困難区域の6町村が帰ってくる。店や買い物をする場所を増やす。
- 処理水の海洋放出で、また風評被害を受ける恐れがある。正確な情報発信で払拭に努める。

【2045年 24年後(40歳)】

- 風評被害と県外最終処分をどうするかが課題である。
- 若い世代が今回のような取り組みに参加し、いろんなことに挑戦する。
- 廃炉が終わる頃、どうやって人を戻すか(マリンスポーツの普及、日帰り観光施設など)を検討する。

【2065年 44年後(60歳)】

- 陸側(山側)の除染が問題であるが、目をそらさないことが大切である。
- 若い世代の選挙態度の改善が必要である。

【2085年 64年後(80歳)】

- 同じ過ちを繰り返さない。次の世代に継承することが重要である。



【意見発表のようす】
(下の写真も)



※ 今回の経験を通して生徒一人一人が「福島が抱える問題」について考え、さらに深めたいと思ったようである。進路指導部としても、この企画を継続・発展させることで、多くの生徒に震災の記憶を伝承し、「福島が抱える問題」について考えさせていきたい。

